

パーソナル放射線量管理システム ユーザーマニュアル

河南省保時安科技株式会社

2023 年 02 月

ソフトウェアを使用する前に、デバイスドライバのインストールが成功していることを確認してください

一、リアルタイムデータ表示



起動ソフトウェアまずデバイスモデルを選択。

1.まず「自動接続」ボタンをクリックし、ソフトウェア接続デバイスを待ち、接続が成功したら下図のように

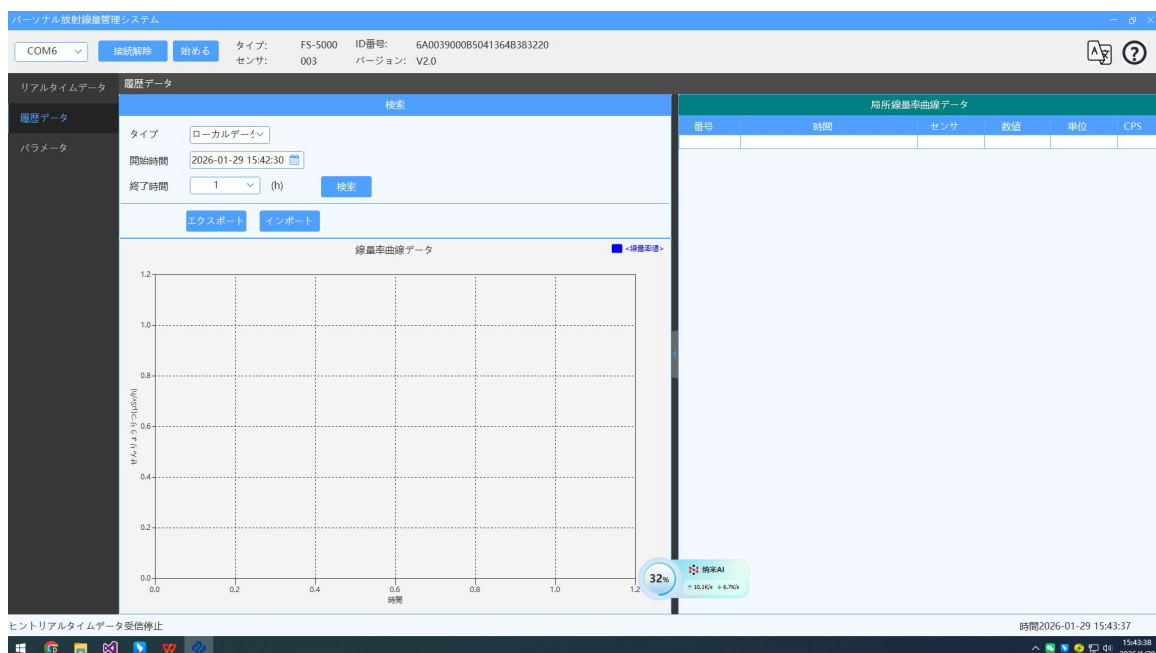


2、デバイス接続が成功すると基本情報が表示され、デバイスデータをリアルタイムで受信できる；

3、「リフレッシュの停止」ボタンをクリックするとリアルタイムデータのリフレッシュ表示を一時停止し、再度「リフレッシュの開始」をクリックすると、データのリフレッシュを再開することができます；

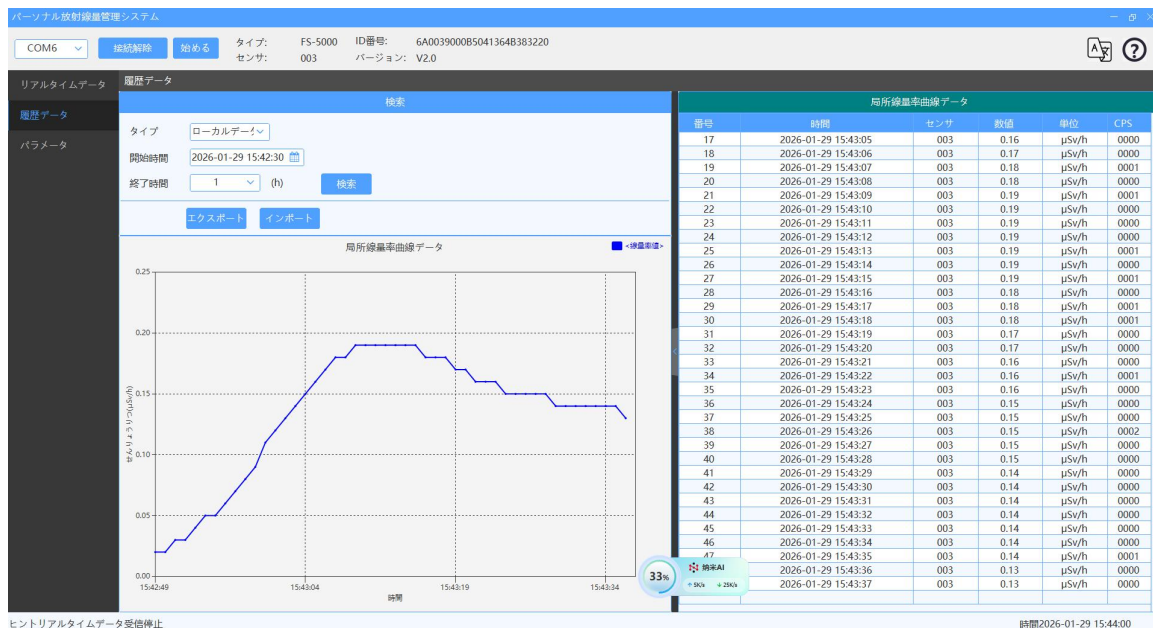
メモ：リアルタイムデータの実行中にシステムに待機状態が発生し、回復後にデータに異常が表示される可能性があります。データのリフレッシュを再開すればよい。

二、履歴データ表示



1. ローカルデータのクエリ

開始時間を選択し、終了時間を選択し、「クエリー」ボタンをクリックして、選択期間内のデータをクエリーします。

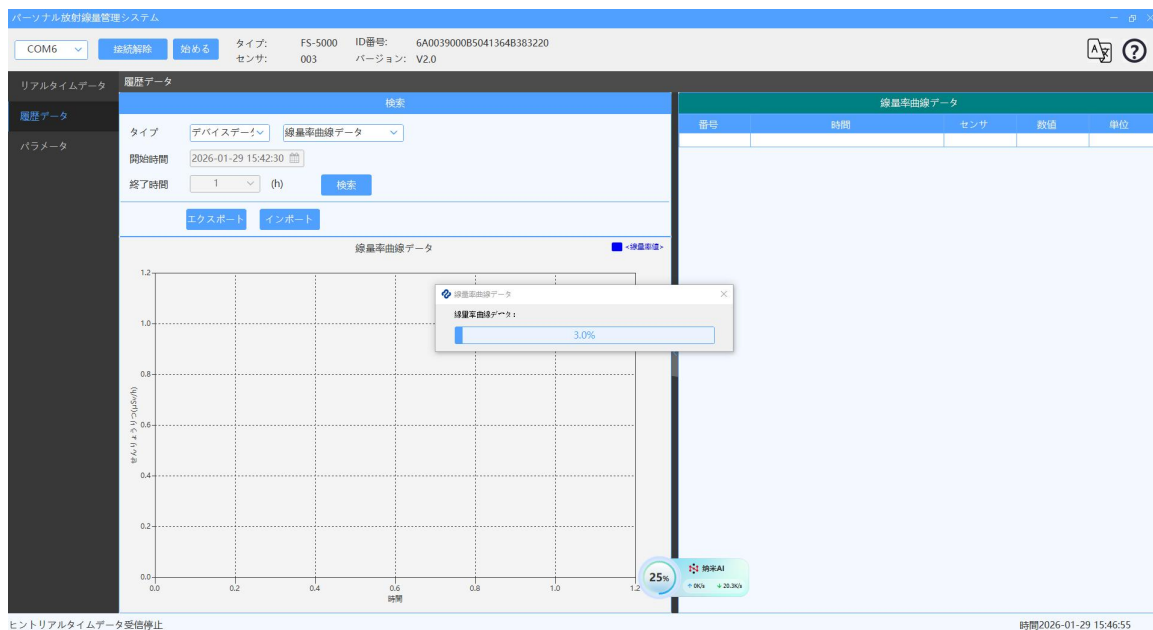


2. デバイスデータのクエリ

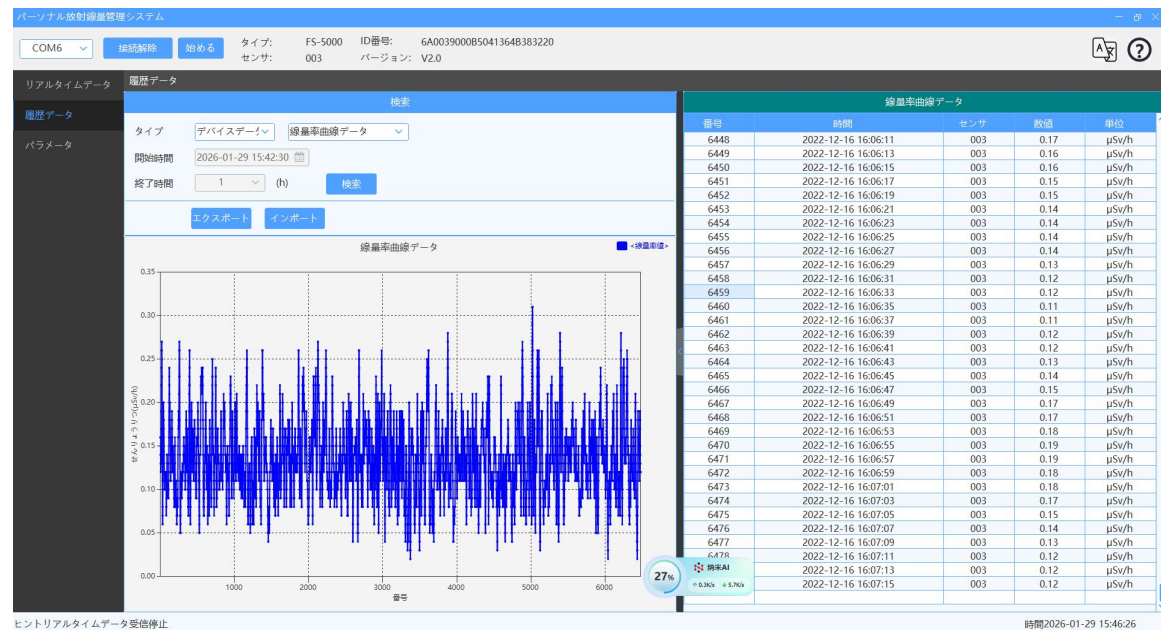
クエリタイプ選択ボックスで、「設備データ」を選択し、二次選択ボックスを表示し、それぞれ設備線量率曲線データ、設備線量曲線データ、設備警報データをクエリーすることができる。

2.1 設備線量率データの照会

デバイスデータを選択し、線量率曲線データを選択し、「クエリー」ボタンをクリックし、クエリーの終了を待って、データ量が大きい可能性があるので、クエリーの完了を待ってください。

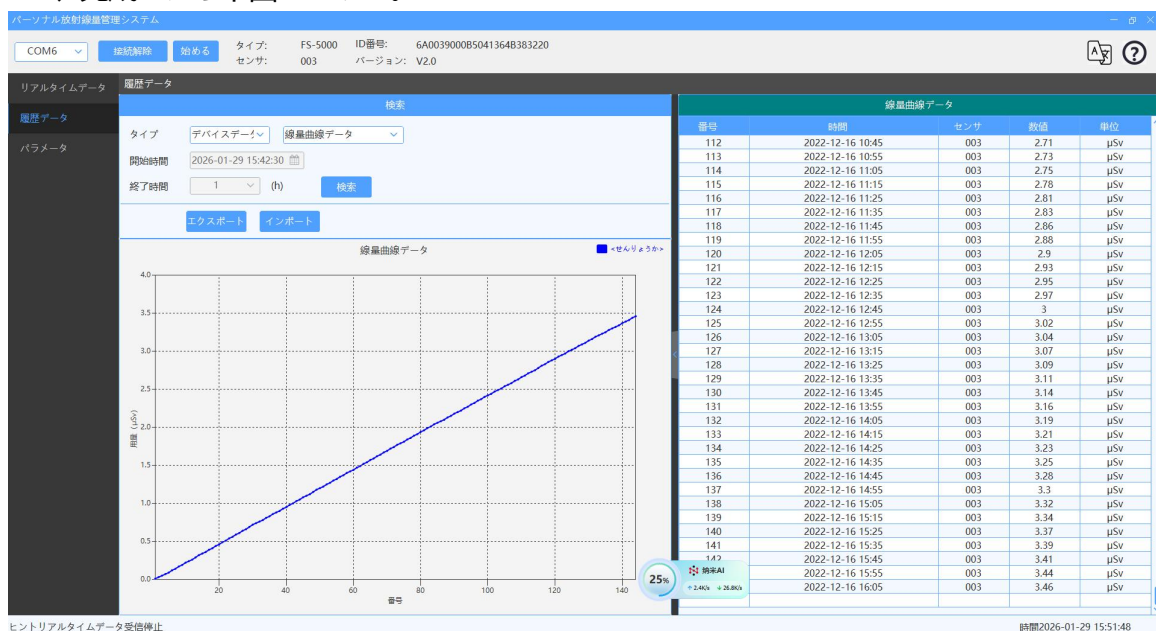


クエリ終了後、下図のように：



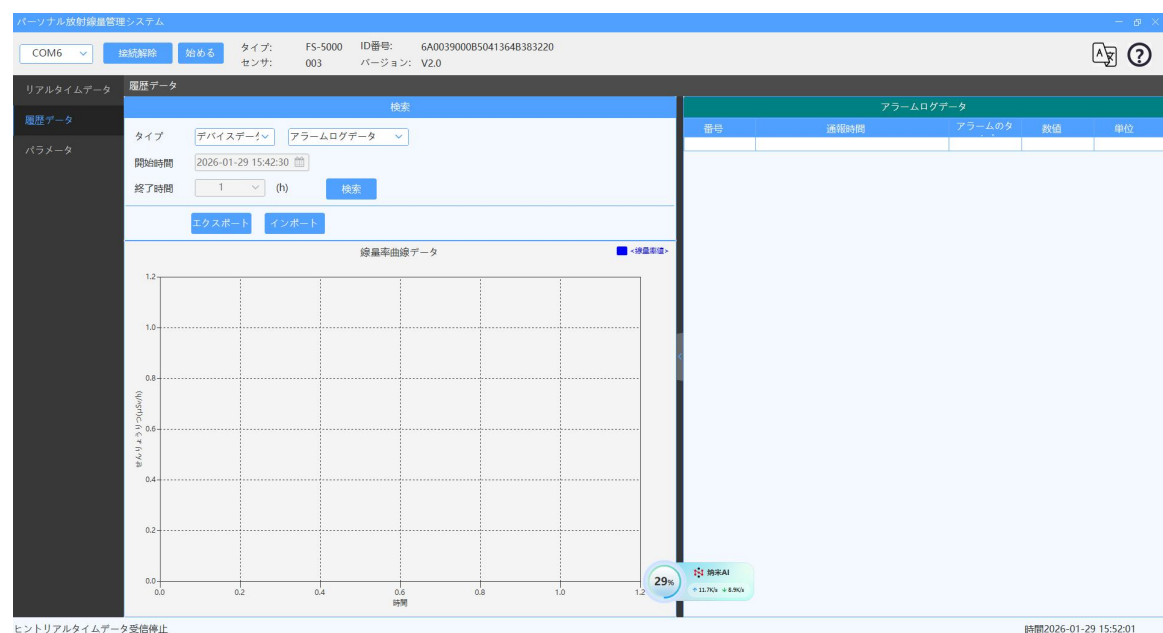
2.2 設備の線量データを調べる

デバイスデータを選択し、線量曲線データを選択し、「照会」ボタンをクリックして、照会が終わるのを待って、データ量が大きいかもしれないので、照会が終わるのを待って、完成したら下図のように。



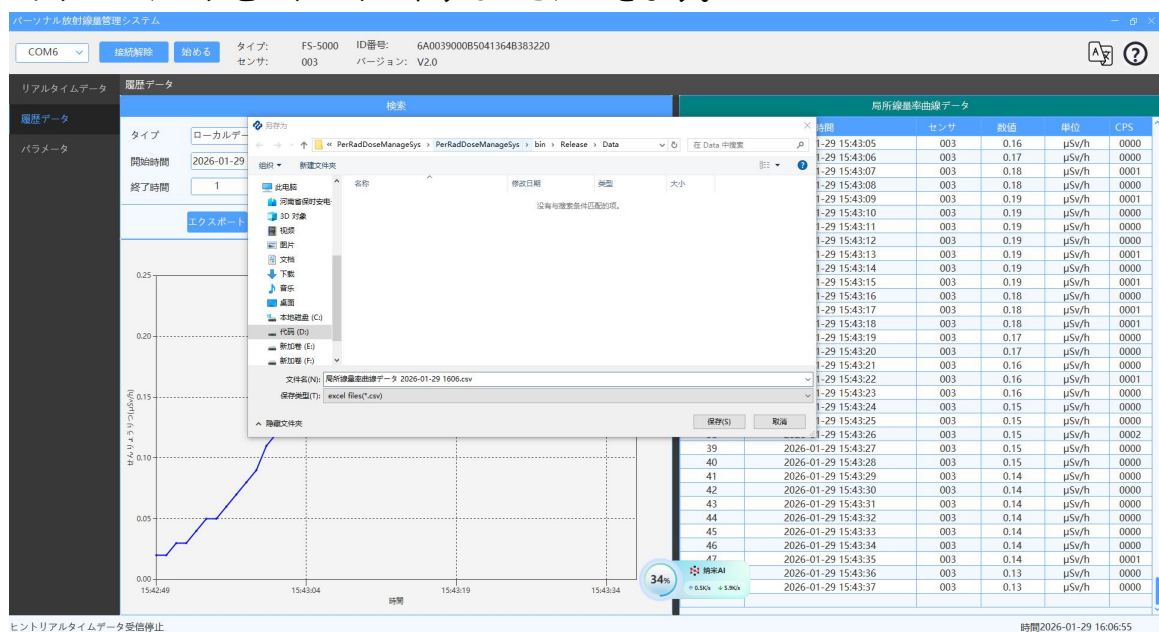
2.3 デバイスアラームデータのクエリ

デバイスデータを選択し、アラーム記録データを選択し、「照会」ボタンをクリックし、照会が終了するのを待って、データ量が大きい可能性があるので、照会が完了するのを待って、完成したら下図のように。



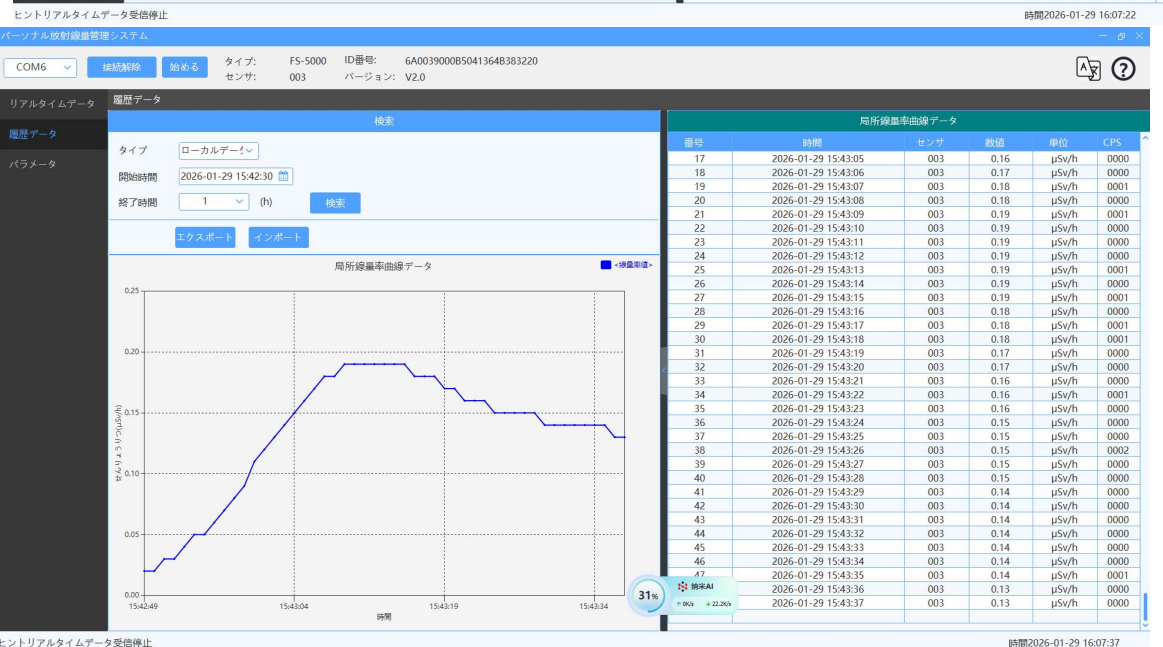
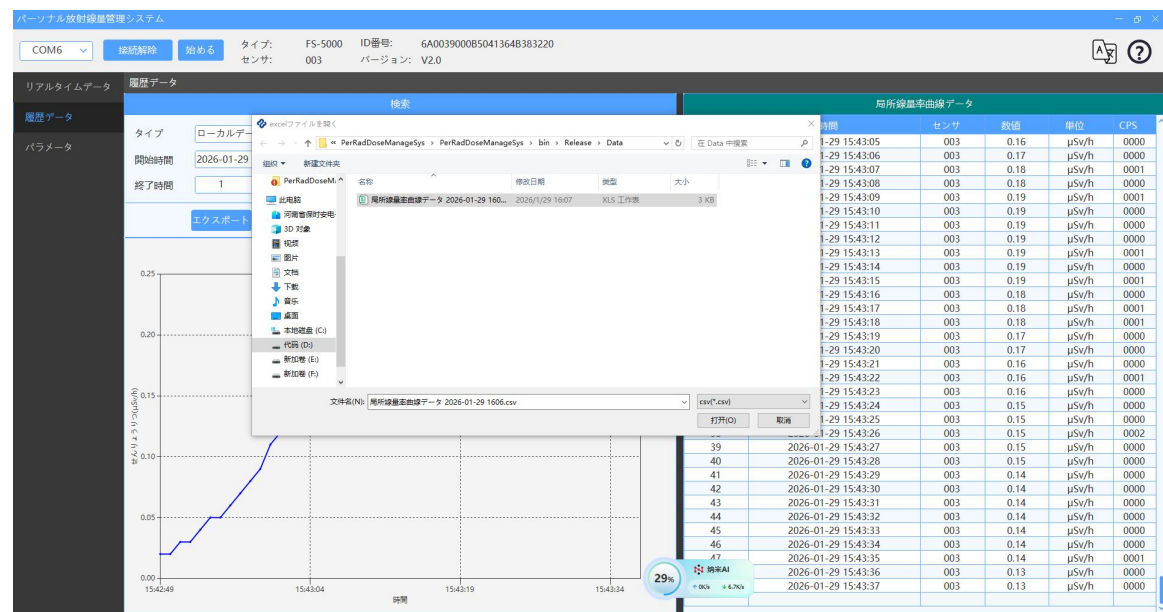
2.4 データエクスポート

ローカルデータを例にとると、データを照会した後、「エクスポート」ボタンをクリックしてデータをエクスポートすることができます。



2.5 データインポート

ソフトウェアからエクスポートされたデータを、ソフトウェアに再インポートします。下図のように、「インポート」ボタンをクリックしてファイルを選択し、ソフトウェアにインポートします。



三、デバイスパラメータ設定

3.1 しきい値設定

用量総額、用量率閾値、用量閾値などの設備パラメータの設定。

3.2 アラーム設定

設備の警報ランプ、警報音、振動警報、粒子音などのスイッチ状態に対して設置する。

3.3 データ管理

設備の累積線量、線量率曲線データ、線量曲線データ、警報記録などのデータの除去操作。および出荷時設定の復元。

3.4 時間線量時間設定

タイミング線量スイッチ、タイミング時間の設定。

3.5 LCDバックライト設定

バックライト強度、バックライト時間の設定。

3.6 その他の設定

運転モード、界面スタイル、校正係数、設備時間の設定に対して、設備パラメータを読み返すこともできる。

メモ：「読み戻しデバイスパラメータ」情報をクリックすると、設定パラメータ

情報が正しいかどうかを確認できます。

四、その他の操作

4.1 言語切り替え



インタフェースでは、ボタンは言語切り替えボタンであり、対応する言語を選択し、インタフェース言語タイプは自動的に切り替えられる。

4.2 帮助文档



インタフェースでは、ボタンはヘルプドキュメントと機能について。

モデル選択、対応モデルのインタフェース表示のロード。

ヘルプドキュメントを選択して、ユーザーマニュアルを自動的に開く。

「機能について」を選択し、「インタフェースについて」を開きます。下図。

